

令和元年度

事業報告



ごあいさつ

日本赤十字社石川県支部
支部長 谷本正憲

赤十字活動の推進につきましては、平素より県民の皆様及び地区・分区はじめ関係の皆様から深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

お陰をもちまして、令和元年度の支部事業については、災害救護体制の充実をはじめ、救急法や健康生活支援講習等の普及のほか、奉仕団及び青少年赤十字活動の育成や国際活動などの各種事業を実施することができました。

赤十字の使命である災害救護事業については、昨年10月に台風第19号災害の被災地（長野県）へ医療救護班を派遣し救護活動を実施しました。このような活動を通じ改めて近い将来の発生が危惧される大規模災害に備えた救護・救援体制の整備・充実に努めていく必要性を痛感しており、令和元年度は支部職員の更なる資質向上を図るため、支部災害対策本部運用訓練の実施など、より高度な知識・技術の習得に努めました。

石川県支部では、県民の方々の日頃の備えとしての救急法や健康生活支援講習、幼児安全法等の普及に努めるとともに、赤十字奉仕団の育成強化や青少年赤十字活動の推進のほか、海外赤十字社に対する支援活動等を実施いたしました。こうした国の内外における赤十字事業は、県民の皆様からお寄せいただく「社資」によって賄われております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

また、金沢赤十字病院では、病院経営を取り巻く環境が大変厳しくなっている中、地域における中核病院・災害拠点病院として、施設・設備の充実を図り、安全で質の高い医療サービスを提供するとともに、地域に根差した最適な医療を提供するため、地域包括ケア病棟等を有効に活用し、更に地域医療連携強化、救急医療の充実を図ることにより、地域の幅広い医療ニーズに対応できるよう努めてきました。

赤十字血液センターにつきましても、国内献血による国内自給を基本理念とした安全で安心できる血液確保が求められており、県民の皆様方の献血により、医療機関が必要とする輸血用血液を安定供給することができました。

また、日本赤十字社副総裁秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席のもと第55回献血運動推進全国大会を開催し、石川県における血液事業の周知、啓発を一層推進することができました。

なお、新型コロナウイルスによる感染症は、世界中で感染の拡大が続いている状況ですが、日本赤十字社では今後も感染拡大防止に努めるとともに、感染された方々の治療に全力で取り組んでまいります。

最後に県民の皆様方におかれましては、今後とも赤十字事業に対しまして、温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

目 次

1	評議員会等の開催状況	1
(1)	評議員会	1
(2)	監査委員による監査	2
(3)	石川県日赤紺綬有功会総会	2
(4)	表彰式	2
2	社資収納状況調	3
(1)	令和元年度社資収納実績	3
(2)	社資収納額の推移（10年間）	3
(3)	令和元年度地区・分区別一般社資収納状況	4
(4)	令和元年度金沢市地区内分区別一般社資収納状況	5
(5)	令和元年度納入会費額別会員（個人）数	6
(6)	令和元年度納入会費額別会員（法人）数	7
(7)	令和元年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数	7
(8)	令和元年度指定寄付金	7
3	義援金・海外救援金	8
(1)	義援金	8
(2)	海外救援金	8
(3)	日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」募金（海外救援金）	8
4	災害救護体制	9
(1)	救護班	9
(2)	救護要員用装具の保有状況	9
(3)	救護用資機材の保有状況	10
(4)	NBC災害用資機材	10
(5)	DMAT装備	11
(6)	地区・分区における救援車配備・整備状況	11

5	災害救護・救援活動及び訓練	12
	(1) 災害救護・救援活動	12
	(2) 防災訓練等への参加	12
	(3) 救護員に対する研修	13
	(4) 防災ボランティアの養成	13
6	救 援 物 資	14
7	その他救援活動	15
8	看 護 師 養 成	15
9	救急法・健康生活支援講習等の普及	16
	(1) 講演会の開催状況（総括）	16
	(2) 養成講習会等の開催状況	17
	(3) 開催地別講習会開催状況	20
	(4) 救急法等指導員在籍状況	21
	(5) 指導員の研修等	21
10	赤十字奉仕団	22
	(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況	23
	(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況	24
	(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況	24
	(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催	24
	(5) 赤十字ボランティア研修会の開催	24
	(6) 赤十字奉仕団による共同作業等の活動	25
11	青少年赤十字	26
	(1) 青少年赤十字の加盟校（園）の状況	26
	(2) 指導体制の充実・強化	27
	(3) メンバーの活動状況	27
	(4) 国際理解・親善活動	28
	(5) ボランティア活動	28
	(6) 普及事業	28

(7) 指導用教材資料の貸し出し	28
(8) 講師派遣	28
12 国際活動	29
13 医療事業	30
(1) 患者数	31
(2) 診療科別患者数	31
(3) 診療単価等	31
14 医療・保健等の社会事業	32
15 血液事業	32
(1) 安全な血液製剤の安定供給	32
(2) 献血者の安定的確保	33
(3) 効率的な事業運営	34
(4) 持続可能な血液事業（事業の活性化）の推進	35
(5) 造血幹細胞事業の推進	35
(6) 献血・血液製剤供給状況等（令和元年度）	35
16 決算状況	37
(1) 令和元年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書	37
(2) 令和元年度医療施設特別会計歳入歳出決算書	38
17 日本赤十字社石川県支部役員名簿	39

1 評議員会等の開催状況

令和元年度における評議員会等の開催状況は、次のとおりである。

(1) 評議員会

第1回評議員会

期 日 令和元年6月7日(金)

会 場 石川県医師会・日赤共同ビル 4階 研修室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 9名

議 事

- ・議案第1号

平成30年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出決算等の承認について

- ・議案第2号

副支部長の選出について

第2回評議員会

期 日 令和2年2月3日(月)

会 場 石川県医師会・日赤共同ビル 4階 研修室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 11名

議 事

- ・議案第1号

令和元年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出補正予算(案)について

- ・議案第2号

令和2年度 事業計画(案)及び地区分區別社資目標額(案)について

- ・議案第3号

令和2年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出予算(案)について

- ・議案第4号

役員改選(案)について

令和2年2月13日で任期満了となる監査委員の山口徹氏の後任として江口
介一氏が選任された。

報 告

- ・石川県支部選出本社理事の推薦について

令和2年3月31日をもって任期満了となる石川県支部選出本社理事の中西
一順氏の再任について本社に推薦することを報告した。

(2) 監視委員による監査

期 日 令和元年5月23日(木)

会 場 日本赤十字社石川県支部 講習室

出席監査委員 岸 弘市 氏、高澤良英 氏、山口 徹 氏

日本赤十字社石川県支部一般会計、金沢赤十字病院特別会計の平成30年度歳入歳出決算及び石川県赤十字血液センターの業務に係る監査が実施され、いずれも適正であると認定された。

(3) 石川県日赤紺綬有功会総会

期 日 令和元年8月22日(木)

会 場 金沢ニューグランドホテル

出席会員 34名

議 事

- ・ 役員の改選について
- ・ 平成30年度石川県日赤紺綬有功会事業報告及び収支決算の承認について
- ・ 令和元年度石川県日赤紺綬有功会事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について
- ・ 日本赤十字社石川県支部事業概要報告

講 話

演題「金沢港におけるクルーズ船誘致の取組みについて」

講師 石川県商工労働部

港湾活用推進室長

中田 哲也 氏



石川県日赤紺綬有功会総会

(4) 表彰式

期 日 令和元年8月22日(木)

会 場 金沢ニューグランドホテル

表 彰

日本赤十字社金色有功章

個人4名、法人2社

日本赤十字社銀色有功章

個人4名、法人2社

日本赤十字社社長感謝状

個人9名、法人4社

厚生労働大臣感謝状

個人2名

石川県支部長感謝状

個人4名、法人4社

令和元年度社資目標額早期完納

金沢市地区内4区分

平成30年度社資目標額超過納入

3市町地区分区

金沢市地区内5分区



支部長感謝状贈呈式

2 社資収納状況調

(1) 令和元年度社資収納実績

区 分		令和元年度			平成30年度 実績額(B)	増減額 (A)-(B)
		目標額	実績額(A)	達成率		
一般社資	地区分区扱	千円 134,006	千円 116,438	% 86.9	千円 116,263	千円 175
	支部直扱	11,994	30,177	251.6	21,110	9,067
	計	146,000	146,615	100.4	137,373	9,242
法人社資		12,000	12,798	106.7	10,137	2,661
計		158,000	159,413	100.9	147,510	11,903

(2) 社資収納額の推移（10年間）

年 度	一般社資		法人社資		計	
	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比
平成22年度	千円 137,736	% 89.3	千円 12,733	% 103.5	千円 150,469	% 90.3
23	289,033	209.8	13,250	104.1	302,283	200.9
24	143,065	49.5	10,386	78.4	153,451	50.8
25	140,538	98.2	9,653	92.9	150,191	97.9
26	138,925	98.9	10,088	104.5	149,013	99.2
27	151,140	108.8	11,747	116.4	162,887	109.3
28	142,579	94.3	12,079	102.8	154,658	94.9
29	136,398	95.7	10,823	89.6	147,221	95.2
30	137,373	100.7	10,137	93.7	147,510	100.2
令和元年度	146,615	106.7	12,798	126.3	159,413	108.0

(3) 令和元年度地区・分區別一般社資収納状況

地区・分區	目標額	実績額	達成率	前年度比
金 沢 市	51,401,000 ^円	39,133,389 ^円	76.1 [%]	95.5 [%]
七 尾 市	7,073,000	6,464,039	91.4	95.5
小 松 市	11,634,000	10,642,863	91.5	95.9
輪 島 市	3,724,000	3,764,135	101.1	113.1
珠 洲 市	1,685,000	1,523,400	90.4	97.7
加 賀 市	7,283,000	5,431,741	74.6	100.2
羽 咋 市	2,795,000	2,849,568	102.0	104.4
か ほ く 市	4,295,000	4,657,549	108.4	114.9
白 山 市	11,990,000	10,092,933	84.2	103.4
能 美 市	5,466,000	5,511,122	100.8	102.0
野 々 市 市	6,906,000	6,867,902	99.4	100.1
川 北 町	578,000	608,218	105.2	105.3
津 幡 町	5,209,000	5,229,576	100.4	106.7
内 灘 町	3,188,000	2,916,736	91.5	95.8
志 賀 町	3,437,000	3,470,000	101.0	126.9
宝 達 志 水 町	1,594,000	1,590,498	99.8	102.6
中 能 登 町	2,092,000	2,072,836	99.1	99.5
穴 水 町	1,155,000	1,236,576	107.1	115.9
能 登 町	2,501,000	2,375,509	95.0	102.0
合 計	134,006,000	116,438,590	86.9	100.2

(4) 令和元年度金沢市地区内分區別一般社資収納状況

分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比	分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比
野 町	790,000	517,036	65.4	101.3	三 和	909,000	776,645	85.4	96.9
弥 生	888,000	577,172	65.0	94.2	三 馬	1,280,000	604,480	47.2	76.5
中 村 町	933,000	615,100	65.9	97.3	米 泉	731,000	694,012	94.9	106.9
十 一 屋	712,000	518,815	72.9	104.5	富 樫	885,000	475,180	53.7	87.1
泉 野	1,588,000	1,495,860	94.2	100.6	伏 見 台	1,135,000	689,560	60.8	101.8
長 坂 台	881,000	646,751	73.4	92.7	額	878,000	587,170	66.9	99.7
新 豎 町	936,000	539,800	57.7	87.2	四 十 万	471,000	307,710	65.3	104.9
菊 川	1,072,000	798,563	74.5	93.1	扇 台	1,056,000	971,012	92.0	97.5
材 木 町	1,257,000	775,912	61.7	96.0	長 田 町	713,000	456,710	64.1	90.5
味噌蔵町	1,127,000	735,278	65.2	102.3	戸 板	963,000	681,546	70.8	90.6
長 町	332,000	329,700	99.3	106.9	西	531,000	452,441	85.2	92.6
松ヶ枝	418,000	388,900	93.0	93.9	二 塚	850,000	678,329	79.8	102.9
長 土 塀	715,000	665,605	93.1	98.8	安 原	782,000	499,773	63.9	98.0
芳 斉	449,000	350,178	78.0	101.8	大 徳	2,556,000	1,744,492	68.3	93.6
此 花	282,000	231,400	82.1	86.4	金 石 町	1,259,000	1,004,475	79.8	93.0
瓢 箪	611,000	468,500	76.7	94.2	大 野 町	364,000	283,078	77.8	93.3
馬 場	581,000	566,857	97.6	93.7	小 立 野	1,290,000	1,120,601	86.9	92.1
浅 野 町	702,000	416,950	59.4	85.5	崎 浦	2,220,000	1,825,072	82.2	93.1
森 山	1,303,000	992,790	76.2	95.5	内 川	115,000	110,000	95.7	99.0
小 坂	1,643,000	1,354,000	82.4	91.8	犀 川	468,000	407,160	87.0	111.8
千 坂	1,270,000	1,025,376	80.7	100.5	湯 涌	143,000	176,900	123.7	89.8
夕 日 寺	657,000	597,466	90.9	95.7	田 上	993,000	626,898	63.1	82.7
諸 江	1,434,000	894,951	62.4	93.9	東 浅 川	101,000	102,000	101.0	103.0
浅 野 川	541,000	458,581	84.8	90.5	俵	46,000	71,900	156.3	92.2
鞍 月	761,000	731,561	96.1	99.1	医 王 山	96,000	115,800	120.6	104.2
粟 崎	637,000	571,713	89.8	103.5	森 本	657,000	486,922	74.1	96.5
川 北	341,000	291,356	85.4	99.8	花 園	375,000	282,171	75.2	115.5
大 浦	920,000	591,320	64.3	83.1	湖 南	689,000	670,000	97.2	100.0
米 丸	1,656,000	1,241,151	74.9	97.9	薬 師 谷	368,000	294,522	80.0	99.1
新 神 田	590,000	442,153	74.9	87.2	三 谷	217,000	215,000	99.1	99.7
押 野	1,254,000	1,134,103	90.4	96.7	市 直 扱	0	0	0.0	0.0
西 南 部	979,000	756,932	77.3	98.9	金 沢 計	51,401,000	39,133,389	76.1	95.5

(5) 令和元年度納入会費額別会員（個人）数

地区区分名	2千円 以上	3千円 以上	5千円 以上	1万円 以上	2万円 以上	3万円 以上	5万円 以上	10万円 以上	20万円 以上	50万円 以上	100万円 以上	人 数
金 沢 市	863	218	152	60	7	4						1,304
七 尾 市	3			14	53	1	1	1				73
小 松 市					27							27
輪 島 市						1				1		2
珠 洲 市												0
加 賀 市												0
羽 咋 市	1						1					2
かほく市	49	3	8	7	14	1		1		1		84
白 山 市	15	2	5	8	30		1	1				62
能 美 市	6	3	5	4	5	1	2	1	1			28
野々市市	2	7	4	1								14
川 北 町					9							9
津 幡 町	32	1	2	2			3		4			44
内 灘 町	27	4	3	3								37
志 賀 町	13	10	8	5	10			2		1		49
宝達志水町	18	1		2	1		1					23
中能登町		1	1	2	7							11
穴 水 町				1				1				2
能 登 町				1								1
地区分区計	1,029	250	188	110	163	8	9	7	5	3	0	1,772
支部直扱	434	211	179	179	70	32	33	13	12	6	4	1,173
個人合計	1,463	461	367	289	233	40	42	20	17	9	4	2,945

(6) 令和元年度納入会費額別会員（法人）数

	2千円 以上	5千円 以上	1万円 以上	2万円 以上	5万円 以上	10万円 以上	20万円 以上	50万円 以上	100万円 以上	人 数
法 人	24	49	96	189	15	12	4	2	1	392

(7) 令和元年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数

表 彰 区 分	功 労 区 分	個 人	法 人	地区分区	団 体	計
紺 綬 褒 章	社 資 功 労	1	0	0	0	1
厚生労働大臣感謝状	社 資 功 労	3	3	0	0	6
日本赤十字社社長感謝状	社 資 功 労	11	7	0	0	18
金 色 有 功 章	社 資 功 労	14	6	0	0	20
	業 務 功 労	0	0	0	0	0
銀 色 有 功 章	社 資 功 労	13	4	0	0	17
	業 務 功 労	0	0	0	0	0
支 部 長 感 謝 状	社 資 功 労	4	4	0	0	8
総 計		46	24	0	0	70

(8) 令和元年度指定寄付金

平成31年3月29日付財務省告示第86号で事業指定の承認を得た法人指定寄付金の募集結果は、次のとおりである。

募集目標額 2,000,000 円
 募集実績額 2,000,000 円
 応募数 1 法人

[使 途 内 訳]

◎災害救護設備の整備

・災害救護車の整備・充実 700,000 円
 ・救護装備の整備 1,180,000 円

◎募 集 事 務 費 120,000 円

平成31年3月29日付総務省告示第140号で指定事業の承認を得た個人指定寄付金の募集結果は、次のとおりである。

募集目標額 500,000 円
 募集実績額 500,000 円

◎災害救護設備の整備 470,000 円

◎募 集 事 務 費 30,000 円

3 義援金・海外救援金

国の内外において発生した災害等による被災者に対し、県民から寄せられた義援金の受付状況は次のとおりである。

(1) 義 援 金

災 害 等 名	件 数	金 額
東 日 本 大 震 災 義 援 金	26 件	939,787 円
平 成 28 年 熊 本 地 震 災 害 義 援 金	9 件	53,987 円
九 州 北 部 大 雨 災 害 義 援 金	3 件	12,629 円
平 成 30 年 7 月 豪 雨 災 害 義 援 金	21 件	1,024,112 円
北 海 道 胆 振 東 部 地 震 災 害 義 援 金	26 件	1,418,244 円
令 和 元 年 8 月 豪 雨 災 害 義 援 金	16 件	733,463 円
令 和 元 年 台 風 第 15 号 千 葉 県 災 害 義 援 金	22 件	2,111,510 円
令 和 元 年 台 風 第 15 号 東 京 都 義 援 金	7 件	39,646 円
令 和 元 年 台 風 第 19 号 災 害 義 援 金	68 件	10,716,632 円
計	198 件	17,050,010 円

(2) 海外救援金

災 害 等 名	件 数	金 額
2019年モザンビークサイクロン救援金	1 件	20,000 円
バングラデシュ南部避難民救援金	2 件	11,000 円
中 東 人 道 危 機 救 援 金	1 件	50,000 円
計	4 件	81,000 円

(3) 日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」募金（海外救援金）

災 害 等 名	件 数	金 額
N H K 海 外 た す け あ い	140 件	1,603,807 円

義援金・海外救援金合計

18,734,817 円

4 災害救護体制

(1) 救護班

令和元年度における救護要員の登録状況は次のとおりである。

災害対策本部要員	14人
救護班要員	48人
血液供給要員	18人
特殊救護員	4人
計	84人

救護班は8個班編成することとしている。

救護班の標準編成基準

医師	看護師長	看護師	主事	計
1人	1人	2人	2人	6人

(注) 編成については、救護業務の状況に応じ個々の基準人員を増減し、また、必要に応じ薬剤師、助産婦、特殊救護員を加える。

救護班要員48人の内訳

職種	要員数
医師	8人
看護師長	8
看護師	16
主事	16

(金沢赤十字病院)

(2) 救護要員用装具の保有状況

(令和2年3月末現在)

品名	数量	品名	数量
作業衣(帽子・バンド含む)	112着	ヘルメット	37個
雨衣	56着	ヘッドライト	20個
防寒具	34着	寝袋(シュラフ)	12枚
作業靴	32足	防災ボランティア用夜光反射ベスト	80着
夜光反射ベスト	56着	防災ボランティア用ヘルメット	80個

(3) 救護用資機材の保有状況

(令和2年3月末現在)

整備区分	整備数	管 理 者				整備区分	整備数	管理者			
		支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区			支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区
業務無線基地局	2局	2				簡易ベッド	165基	24	100		41
業務無線車載局	31局	12	3	16		担 架	63基	12	10		41
業務無線携帯局	23局	23				簡易処置台	13台	5	8		
アマ無線局	4局	4				担 架 台	5台	5			
救 急 車	1台		1			スノーボード	4艇	4			
救 援 車	37台	5			32(1)	救 命 プ イ	14個	14			
連 絡 車	3台	1	1	7		医 療 セ ッ ト	3組	1	2		
採 血 車	4台			4		携帯型医療セット	2組	2			
採血検査車	2台			2		浄 水 器	4機	1	3		
血液輸送車	8台			8		簡易トイレ	2器	2			
資材輸送車	2台			2		ツルハシ	2本	2			
車両搭載用救急セット	40組	5			35	ス コ ッ プ	4本	4			
救護用エアートント	2張	2				レスキューボード	3機	3			
救護テント	196張	11			185	バックボード	1機	1			
奉仕団テント	52張				52	シュノーケル	10個	10			
発 電 機	8基	8				マ ス ク	10個	10			
投 光 機	14基	14				フ ィ ン	10個	10			

(注) () は、令和元年度に新規購入又は更新した数量で内書き。

(4) NBC災害用資機材

(N : Nuclear 「核」、B : Biological 「生物」、C : Chemical 「化学」)

品 目	数 量	品 目	数 量
除 染 テ ン ト	1	防 護 マ ス ク	12
防 護 服 セ ッ ト	12	除 染 済 者 セ ッ ト	50
A E D	2		

(5) DMAT装備

(DMAT : Disaster Medical Assistance Team)

品 目	数 量	品 目	数 量
ポータブル人工呼吸器	1	輸液ポンプ	1
ポータブル吸引器	1	携帯型超音波診断装置	1
簡易型心電図モニター	1		

(6) 地区・分区における救援車配備・整備状況

(令和2年3月末現在)

配 備 先	登 録 日	車 種 (型式)	配 備 先	登 録 日	車 種 (型式)
七 尾 市	H13. 7. 13	ワ ゴ ン	川 北 町	H17. 5. 26	ワ ゴ ン
小 松 市	H23. 9. 14	ライトバン	野 々 市 市	H16. 7. 29	ワ ゴ ン
	H29. 9. 22	ワ ゴ ン	津 幡 町	H25. 9. 19	ワ ゴ ン
輪 島 市	H25. 8. 30	ワ ゴ ン	志 賀 町	H12. 6. 8	ワ ゴ ン
	H30. 9. 18	ワ ゴ ン		H24. 9. 6	ワ ゴ ン
珠 洲 市	H22. 8. 26	ワ ゴ ン	宝 達 志 水 町	H14. 8. 23	ワ ゴ ン
加 賀 市	H18. 7. 27	ワ ゴ ン		H29. 8. 24	ワ ゴ ン
	H22. 9. 14	ワ ゴ ン	中 能 登 町	H14. 5. 31	ワ ゴ ン
羽 咋 市	H29. 2. 17	ワ ゴ ン		H18. 9. 28	ワ ゴ ン
か ほ く 市	H26. 7. 23	ワ ゴ ン	穴 水 町	H23. 11. 14	ワ ゴ ン
	R 1. 7. 22	ワ ゴ ン		H18. 7. 28	ワ ゴ ン
白 山 市	H 7. 5. 30	ワ ゴ ン	能 登 町	H21. 6. 10	ワ ゴ ン
	H11. 10. 28	ワ ゴ ン		H28. 3. 29	ワ ゴ ン
	H13. 7. 30	ライトバン	計	ライトバン	3 台
	H14. 6. 26	ライトバン		ワ ゴ ン	28 台
H15. 3. 19	ワ ゴ ン	31 台			
能 美 市	H19. 5. 25	ワ ゴ ン			
	H28. 7. 26	ワ ゴ ン			

(注) 平成10年度から市町又は地区・分区が取得(登録)する災害救援用車両に対し、取得費の(100万円限度)を助成している。

平成23年度より、助成額の上限を取得費の(70万円限度)に改定した。

5 災害救護・救援活動及び訓練

令和元年東日本台風の被災地において救護・救援活動を実施したほか、各防災関係機関合同の防災訓練等への参加、防災ボランティアの養成及び救護班要員に対する研修を行った。

(1) 災害救護・救援活動

令和元年10月6日に発生し、12日に日本に上陸した台風が甚大な被害をもたらした令和元年台風第19号災害の救護・救援活動のため、下記のとおり各要員を派遣した。

派遣要員	派遣期間	派遣先	内容
救護班1個班 (医師1名・看護師3名・薬剤師1名・主事2名)	10月17日(水)～20日(日)	長野県長野市	避難所アセスメント 環境改善活動
災害対策本部要員1名	10月26日(金)～29日(月)	長野県長野市	災害対策本部運営



派遣救護班の出発式



ダンボールベッドの組み立て作業

(2) 防災訓練等への参加

ア 石川県支部災害対策本部運営訓練

令和2年2月28日(金)、支部を会場として標記訓練を実施した。災害発生時に設置される災害救護実施対策本部の運営方法の確認及び本部業務に従事する要員の資質向上を目的とし、支部事務局、日赤災害医療コーディネーターチーム等、総勢12名が参加した。

イ 石川県防災総合訓練

令和元年9月8日(日)、野々市市一円において実施された標記訓練に、支部事務局職員、金沢赤十字病院救護班、石川県赤十字血液センター職員のほか、安全法奉仕団、無線奉仕団、青年奉仕団等の特別奉仕団等、総勢52名が参加し、災害時における救護訓練を実施した。



災害救護の基礎知識の確認



初動対応訓練

ウ 金沢港大型クルーズ客船災害対応訓練

令和元年9月12日(木)、「金沢港大型クルーズ客船災害対応訓練」が開催され、支部事務局職員、金沢赤十字病院医療救護班のほか、安全法奉仕団、青年奉仕団等、総勢19名が参加しました。医療救護班が他機関と連携しながら救護所での活動にあたったほか、奉仕団員は訓練の模擬患者役を務めました。

エ 小松空港民間航空機消火救難総合訓練

令和元年9月26日(木)、小松空港において実施された標記訓練に、支部事務局職員、安全法奉仕団、青年奉仕団、学生奉仕団、地域奉仕団等、総勢30名が参加した。

オ 石川県原子力防災訓練

令和元年11月4日(月)、県内一円において実施された標記訓練に金沢赤十字病院の放射線技師、事務職の2名が参加し、緊急被ばく医療措置訓練を実施した。

カ 石川県原子力防災対策通信連絡演習

毎月第2水曜日に、北陸電力(株)志賀原子力発電所を発信元とし、次のルートで通報を伝達する「異常事態発生通報訓練」に参加し、医療救護班の初動体制の確保に備えた。

北陸電力(株)志賀原子力発電所→県危機対策課→県医療対策課→日赤県本部

(3) 救護員に対する研修

ア 事務職対象「救護員研修」の実施

災害時の救護業務を円滑かつ的確に遂行するため、事務系職員等に対し研修(全7回)を実施し、新たに1名を救護員として登録した。

イ 本社主催「日赤災害医療コーディネート研修会」への参加

令和元年12月7日(土)～8日(日)、災害時により効果的・効率的に関係機関との連携及び救護班の活動調整を実施するためのコーディネート力の向上を目的とした本社主催の研修会に、支部事務局1名が参加した。

ウ 本社主催「こころのケア指導者養成研修会」への参加

令和元年11月15日(金)～17日(日)、こころのケアに関する活動を充実させ、普及指導体制を強化するため、こころのケア指導者を養成することを目的とした本社主催の研修会に、金沢赤十字病院看護師1名が参加した。

(4) 防災ボランティアの養成

ア 特別奉仕団対象「救護ボランティア基礎研修会」の開催

令和元年5月18日(土)、石川県赤十字血液センターにおいて、特別奉仕団員及び高校JRC部員を対象に標記研修会を開催し75名が受講した。

イ 特別奉仕団対象「救護ボランティア研修会」の開催

令和元年10月19日(土)、石川県赤十字血液センターにおいて、特別奉仕団員を対象に標記研修会を開催し63名が受講した。

ウ 本社主催「日本赤十字社防災教育事業指導者養成研修」への参加

令和元年7月26日(金)～28日(日)、支部で実施する赤十字防災セミナーの指導者を養成する標記研修会に病院職員2名が参加した。

6 救 援 物 資

地区・分区における救護物資の令和元年度中における被災者（火災等を含む。）に対する配付実績及び令和元年度末における保有数は次のとおりである。

地区分区	配布数			保有数			地区分区	配布数			保有数		
	毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット		毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット
七尾市	枚 2	セット 0	枚 0	枚 86	セット 29	枚 0	津幡町	枚 0	セット 0	枚 0	枚 23	セット 8	枚 0
小松市	7	3	0	42	27	0	内灘町	0	0	0	30	11	0
輪島市	0	0	0	37	9	10	志賀町	0	0	0	42	16	1
珠洲市	0	0	0	31	14	0	宝達志水町	0	0	0	55	2	0
加賀市	16	3	0	72	24	53	中能登町	0	0	0	30	12	0
羽咋市	0	0	0	24	13	10	穴水町	0	0	0	30	7	0
かほく市	0	0	0	81	12	0	能登町	0	0	0	51	16	0
白山市	8	4	0	317	54	59	金沢市	17	7	0	12	5	0
能美市	10	1	0	24	5	0	計	76	18	0	1,031	288	133
川北町	0	0	0	30	12	0	支部	/	/	/	823	448	849
野々市市	16	0	0	14	12	0	総計	76	18	0	1,854	736	982



7 その他救護活動

県、市町等からの依頼により、各種イベント等の会場へ奉仕団員等を派遣し、事故の防止と救護活動を実施した。

行 事 名	期 日	派 遣 延 数
全日本競歩輪島大会	4月13日、14日	9 ^名
石川県障害者スポーツ大会	5月27日	7
金沢百万石まつり	6月6日	120
石川県戦没者慰霊式	8月2日	4
野々市じょんがらの里マラソン大会	10月20日	6
金沢マラソン	10月27日	80
計		226



百万石まつり



金沢マラソン

8 看護師養成

金沢赤十字病院における医療救護班要員の中核となる看護師を確保するとともに、医療施設要員の充足を図るため、日本赤十字豊田看護大学生6人、石川県立看護大学生2人、金城大学（看護学部）生4人、合わせて12人に対し奨学金を支給した。

大学別学生数

大学名 \ 学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
日本赤十字豊田看護大学	2 ^人	1 ^人	2 ^人	1 ^人	6 ^人
石川県立看護大学	1	1	—	—	2
金城大学（看護学部）	—	—	2	2	4
合 計					12

9 救急法・健康生活支援講習等の普及

県民が人命を尊び、健康で安全な生活を送っていただくことを願って、不慮の事故や急病に対する応急手当の方法（救急法）、高齢者の健康と安全、地域における高齢者支援及び日常生活における介護の方法（健康生活支援講習、これまでの家庭看護法を見直し再構成したもの）、こどもの病気や事故に対する応急手当の方法（幼児安全法）及び水の安全や溺者救助の方法（水上安全法）を教える講習会を県内各地で開催するとともに、指導員の養成・研修等指導体制の強化を図った。

(1) 講習会の開催状況（総括）

		平成31・令和元年度			平成30年度			前年度比
		支部主催	その他	計	支部主催	その他	計	
救 急 法	基 礎	9 回	16 回	25 回	9 回	20 回	29 回	86.2 %
	養 成	7	12	19	8	11	19	100.0
	短 期	1	317	318	0	312	312	101.9
健康生活支援講習	養 成	3	1	4	3	1	4	100.0
	短 期	4	30	34	4	38	42	81.0
幼 児 安 全 法	養 成	1	1	2	3	2	5	40.0
	短 期	4	61	65	4	58	62	104.8
水 上 安 全 法	養 成	1	0	1	2	0	2	50.0
	短 期	0	34	34	0	56	56	60.7
雪 上 安 全 法	養 成	0	0	0	0	0	0	0.0
	短 期	0	0	0	0	0	0	0.0
合 計	基 礎	9	16	25	9	20	29	86.2
	養 成	12	14	26	16	14	30	86.7
	短 期	9	442	451	8	464	472	95.6
総 計		30	472	502	33	498	531	94.5



救急法講習



健康生活支援講習

(2) 養成講習会等の開催状況

【救 急 法】

救急法基準講習（４時間）

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社 石川県支部	4月21日	17 ^人	17 ^人
〃	6月9日	32	32
〃	7月7日	30	30
〃	8月4日	19	19
〃	9月29日	19	19
〃	11月9日	13	13
〃	12月1日	9	9
〃	1月18日	18	18
〃	2月1日	13	13
石川県警察学校	4月11日～10月23日	67	67
金沢学院高等学校	4月16日～5月28日	71	71
国際医療福祉専門学校七尾校	4月26日	12	12
のとセーリングアドベンチャー	5月9日	6	6
金沢赤十字病院	7月12日	6	6
〃	8月23日	7	7
第一電機工業協力会	9月16日	21	21
鵬学園高等学校	9月10日～9月24日	10	10
金沢福祉専門学校	10月3日～10月17日	12	12
日本航空大学校	11月5日	34	34
〃	11月11日	29	29
〃	11月26日	37	37
金沢星稜大学	12月21日	8	8
石川県立田鶴浜高等学校	12月24日	40	40
〃	2月4日	25	25
キョーリンリメディオ株式会社	2月19日	14	14
計 25回		569	569

救急員養成講習（14時間）

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社 石川県支部	5月11日～5月12日	10 ^人	9 ^人
〃	6月15日～6月16日	15	15
〃	7月20日～7月21日	20	20
〃	9月7日～9月8日	9	8
〃	10月12日～10月13日	12	10
〃	12月7日～12月8日	11	11
〃	2月15日～2月16日	22	22
金沢学院高等学校	6月11日～2月4日	71	71
石川県警察学校	6月14日～12月5日	65	65
石川県立田鶴浜高等学校	12月24日～12月26日	40	40
〃	2月4日～2月6日	25	25
金沢赤十字病院	7月13日～7月14日	5	5
〃	8月24日～8月25日	4	4
鵬学園高等学校	9月24日～11月26日	10	8
金沢福祉専門学校	10月24日～1月23日	12	12
日本航空大学校	11月5日～11月7日	34	33
〃	11月11日～11月15日	29	29
〃	11月26日～11月28日	37	37
金沢星稜大学	1月11日～1月12日	7	7
計 19回		438	431

【健康生活支援講習】（12時間）

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
かほく市赤十字奉仕団	4月25日～6月6日	17人	13人
日本赤十字社石川県支部	8月17日～8月31日	2	2
〃	10月18日～10月20日	2	2
〃	1月29日～2月12日	2	1
計 4回		23	18

【幼児安全法】

支援員養成講習（12時間）

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	11月16日～11月17日	2人	2人
金沢福祉専門学校	10月16日～11月26日	11	10
計 2回		13	12

【水上安全法】

救護員Ⅰ養成（14時間）

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	11月22日～11月24日	8人	8人
計 1回		8	8

【合計】

講習種別	開催数	受講者数	合格者数
基礎講習	25回	569人	569人
養成講習	26	482	469
計	51	1,051	1,038

(3) 開催地別講習会開催状況

地区・分区	養成講習						短期講習				
	救急法 (基礎)	救急法	健康生 活支 援講 習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法	救急法	健康生 活支 援講 習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法
金 沢 市	17 ^回	13 ^回	3 ^回	2 ^回	1 ^回	^回	228 ^回	17 ^回	40 ^回	16 ^回	^回
七 尾 市	5	3					11	1	1	1	
小 松 市							10	1	1		
輪 島 市	3	3					1				
珠 洲 市							1		1		
加 賀 市							1	2	1	4	
羽 咋 市							3				
か ほ く 市			1					4			
白 山 市							31		9	6	
能 美 市							8				
野々市市							12	8	7	4	
川 北 町							1				
津 幡 町							1		4	3	
内 灘 町							3				
志 賀 町							2				
宝達志水町							2				
中能登町							1				
穴水町							1		1		
能登町							1	1			
合 計	25	19	4	2	1	0	318	34	65	34	0

(4) 救急法等指導員在籍状況

単位…人（令和2年3月末現在）

	赤十字職員			ボランティア	合計
	支部職員	病院職員	センター職員		
救急法	7 ^人	13 ^人	2 ^人	97 ^人	119 ^人
健康生活支援講習	1	10	0	16	27
幼児安全法	4	6	2	29	41
水上安全法	1	0	0	12	13
雪上安全法	1	0	0	15	16
計	14	29	4	169	216

(5) 指導員の研修等

指導員の資質向上を図るため、次のとおり研修会を開催するとともに、本社及びブロック主催の研修会へ派遣した。

部門別	研修会・講習会		
	本部	本社	ブロック
救急法	1 ^回	1 ^回	1 ^回
水上安全法	1	1	
健康生活支援講習	1	1	1
幼児安全法	1	1	
雪上安全法			
計	4	4	1

10 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、人道・博愛の精神に基づき、各分野で赤十字活動を行うことを目的として結成されたボランティアの組織である。

赤十字奉仕団には、市町等の地域ごとに結成されている「地域奉仕団」、青年や学生で組織されている「青年奉仕団」、特殊技術を持つ人たちが中心となって組織された「特殊奉仕団」がある。

石川県支部に登録されている赤十字奉仕団は、次のとおりである。

(令和2年3月末現在)

種 別	団 数	団 員 数
地 域 赤 十 字 奉 仕 団	51 団	2,854 人
青 年 赤 十 字 奉 仕 団	4	173
特 殊 赤 十 字 奉 仕 団	7	276
計	62	3,303

[赤十字奉仕団の主な活動内容]

- ① 会員増強に関する奉仕活動
社資募集、赤十字新聞の発送・配送業務
- ② 災害救護活動
救援物資の輸送・配分、被災者等への炊き出し、応急救護の支援等
- ③ 青少年赤十字にかかわる活動
研修会の援助
- ④ 献血にかかわる活動
献血推進キャンペーンの実施、献血者の受付及び案内
- ⑤ 救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法、幼児安全法に関する活動
各種講習会での指導
- ⑥ 赤十字病院での活動
身の回りの世話、話し相手、患者の受付と案内、衛生材料づくり
- ⑦ 障害者にかかわる活動
朗読サービス、点訳、手話通訳、通学・通勤の介助送迎
- ⑧ 社会福祉施設での活動
授乳・食事の介助、行事の手伝い、話し相手
- ⑨ 国際支援に関する奉仕活動

(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況

(令和2年3月末現在)

奉 仕 団 名	委 員 長 名	結成年月日	団 員 数		
			男	女	計
十一屋校下赤十字奉仕団	中村喜久夫	S49.12.8	28 ^人	10 ^人	38 ^人
馬場赤十字奉仕団	清水満	S50.6.10	32	1	33
大徳赤十字奉仕団	高畠菊丸	S51.7.16	46	26	72
三馬赤十字奉仕団	若松恵美子	S51.7.17	21	31	52
小立野赤十字奉仕団	高野健三	S51.8.17	36	33	69
金石赤十字奉仕団	鶴山庄市	S51.10.12	45	1	46
輪島市赤十字奉仕団	下善裕	S52.6.13	3	18	21
瓢箪町地区赤十字奉仕団	檜物鋭一	S52.7.20	39	0	39
新豎赤十字奉仕団	田中晋介	S52.11.8	1	5	6
森山赤十字奉仕団	谷村憲治	S53.7.8	4	8	12
富樫赤十字奉仕団	中山學	S53.8.1	7	18	25
小松市赤十字奉仕団	北川辰夫	S54.6.19	1	375	376
安原地区赤十字奉仕団	池田一	S54.7.19	1	11	12
中村町校下赤十字奉仕団	大川兼紀	S55.3.9	29	1	30
戸板赤十字奉仕団	吉田和夫	S55.9.1	34	39	73
野町赤十字奉仕団	宮本哲一	S55.10.16	39	23	62
鞍月赤十字奉仕団	田原康夫	S55.11.17	15	1	16
押野赤十字奉仕団	竹田良雄	S56.5.30	22	35	57
新神田校下赤十字奉仕団	山岸正光	S57.7.10	1	3	4
長坂台校下赤十字奉仕団	土倉克己	S58.7.18	31	8	39
栗崎校下赤十字奉仕団	西澤寛一	S58.9.9	17	28	45
額校下赤十字奉仕団	吉本外明	S59.10.18	4	28	32
西南部校下赤十字奉仕団	中川俊一	S59.11.13	17	19	36
三和校下赤十字奉仕団	柴山正美	S60.3.23	0	46	46
七尾市赤十字奉仕団	芋塚隆彦	S61.9.29	7	25	32
加賀市赤十字奉仕団	荒木優子	S62.3.3	0	23	23
西校下赤十字奉仕団	池田恵子	S62.10.28	1	21	22
内灘町赤十字奉仕団	亀田武彦	S63.11.10	3	23	26
米丸校下赤十字奉仕団	伊藤賢一	H1.5.15	32	4	36
米泉校下赤十字奉仕団	東昭男	H2.7.9	12	10	22
松任ふれあい赤十字奉仕団	南眞次	H5.9.2	7	60	67
白山市美川まつぼっくり赤十字奉仕団	新千鶴子	H5.10.8	0	72	72
四十万校下赤十字奉仕団	大学正治	H6.6.20	14	22	36
崎浦地区赤十字奉仕団	谷内賢正	H6.6.27	45	3	48
扇台校下赤十字奉仕団	渡辺俊晃	H6.11.27	10	24	34
金沢川北赤十字奉仕団	黒田圭蔵	H8.7.6	13	25	38
志賀町赤十字奉仕団	山本洋子	H8.8.20	2	166	168
能美市赤十字奉仕団	田中策次郎	H9.5.24	2	15	17
津幡町赤十字奉仕団	筑波恵美子	H11.8.20	11	24	35
小坂校下赤十字奉仕団	松本明	H13.7.22	50	20	70
弥生校下赤十字奉仕団	石田善松	H14.4.27	4	19	23
宝達志水町赤十字奉仕団	柴田捷	H15.3.17	33	107	140
かほく市赤十字奉仕団	富澤明次	H16.5.28	10	307	317
菊川赤十字奉仕団	寺本良之	H16.7.24	9	27	36
能登町赤十字奉仕団	的場清一	H17.5.24	7	105	112
白山ろく赤十字奉仕団	中村滋子	H18.4.17	5	35	40
鶴来ふれあい赤十字奉仕団	金丸和弘	H18.4.24	5	11	16
穴水町赤十字奉仕団	大島秀文	H21.11.5	11	13	24
珠洲市赤十字奉仕団	松原了啓	H21.12.11	2	18	20
羽咋市赤十字奉仕団	柳澤豊志	H22.8.26	82	39	121
夕日寺校下赤十字奉仕団	中川一成	R1.11.2	16	2	18
計	51団		866	1,988	2,854

(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況

(令和2年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男	女	計
石川県青年赤十字奉仕団	瀬那みづき	S38. 4. 1	9 ^人	23 ^人	32 ^人
金沢星稜大学学生赤十字奉仕団	米澤秀哉	H11. 4. 13	34	75	109
金沢医療系学生赤十字奉仕団	赤松洋光	H27. 5. 8	3	5	8
北陸大学学生赤十字奉仕団	谷口あかり	H30. 4. 13	4	20	24
計	4団		50	123	173

(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況

(令和2年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男	女	計
石川県赤十字安全法奉仕団	村中洋	S36. 8. 26	40 ^人	62 ^人	102 ^人
石川県無線赤十字奉仕団	北崎義夫	S42. 3. 20	37	2	39
金沢婦人赤十字友の会	金山由紀子	S47. 9. 17	0	6	6
石川県赤十字雪上救護奉仕団	永井敏昌	S53. 12. 2	10	2	12
石川県赤十字救護奉仕団	荒木覚	S59. 6. 28	15	6	21
青少年赤十字賛助奉仕団	久保献令	H15. 5. 2	17	7	24
石川県柔道整復師会赤十字奉仕団	嶋谷清	H22. 4. 25	71	1	72
計	7団		190	86	276

(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催

- ア 総会 平成31年4月19日(金) 県医師会館 出席者 43名
- イ 役員会
- 第1回 平成31年4月19日(金) 日赤石川県支部
- 第2回 令和元年7月2日(火) 〃
- 第3回 令和2年1月17日(金) 能美市ふるさと交流センターさらい
- ウ 機関紙発行
- 「赤十字奉仕団だより」 令和元年9月30日 第38号発刊
令和2年3月31日 第39号発刊

(5) 赤十字ボランティア研修会の開催

- ア 基礎研修会
- 令和元年8月18日(日) 石川県赤十字血液センター 参加者 25名
- イ 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修
- 令和元年11月24日(日) 石川県赤十字血液センター 参加者 18名

(6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動

ア チャリティーバザーの実施

「赤十字運動月間」キャンペーンの一環として「世界の子どもを救おう！」をテーマに各地区奉仕団が共同でチャリティーバザーを実施した。

- ・加賀地区（6奉仕団） 令和元年5月19日（日） ショッピングセンター コア
 - ・金沢地区（9奉仕団） 令和元年7月7日（日） 金沢市「アルプラザ金沢」
 - ・能登地区（11奉仕団） 令和元年10月5日（土） 矢田郷地区コミュニティーセンター
- バザー収益金 839,930円が日本赤十字社石川県支部へ寄託され、日赤第3ブロック支部共同国際事業資金として活用した。

イ 肢体不自由児水泳教室に対する協力

石川県肢体不自由児協会が実施した身体障害児水泳療育訓練（毎月第1・第3土曜日：金沢市西部プール）において、赤十字安全法奉仕団の団員が指導にあたった。

ウ 金沢百万石まつりに対する協力

百万石行列において、特殊奉仕団4団（安全法、無線、青少年賛助、柔道整復師会）や、青少年奉仕団3団（青年、星稜大学、北陸大学）のほか、青少年赤十字加盟高等学校5校（辰巳丘、金沢泉丘、津幡、羽咋、翠星）等、12団体（7奉仕団、5校）122名が協力し、観客や参加者に対する救護や、迷子の搜索活動等にあたった。

エ 金沢マラソン2019に対する協力

金沢マラソンにおいて、特殊奉仕団1団（安全法）や、青年奉仕団4団（青年、星稜大学、北陸大学、RC Konnect）等、4奉仕団70名がAED隊として救護活動にあたったほか、応援スポットや給水ポイント等において、近接の地域奉仕団や青少年赤十字加盟高等学校が運営ボランティアとして参加した。



赤十字ボランティア・リーダーシップ研修



加賀地区チャリティーバザー

11 青少年赤十字

青少年赤十字活動は、児童・生徒が赤十字の精神である人道・博愛の心を理解体得し、世界の平和と人類の福祉向上に貢献出来るよう、日常の学校生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的とした活動である。

「健康・安全」「奉仕」「国際親善・理解」の3つを実践目標に掲げ、メンバー自身が「気づき」「考え」「実行する」という取り組みを行っている。

(1) 青少年赤十字の加盟校（園）の状況

区 分	令和元年度（園・校）	平成30年度（園・校）	増減（園・校）
幼稚園・保育園	2	2	0
小学校	84	83	1
中学校	33	32	1
高等学校・特別支援学校	32	32	0
計	151	149	2

幼稚園・保育園			小学校			中学校			高等学校・特別支援学校		
番号	市町村	園	番号	市町村	学校名	番号	市町村	学校名	番号	市町村	学校名
1	七尾市	七尾みなどこども園	1	加賀市	片山津	1	小松市	丸内	1	小松市	松立
2	〃	東みなどこども園	2	〃	湖北見	2	〃	松陽	2	〃	小松市
			3	〃	湖作	3	〃	国府	3	〃	小松市
			4	小松市	稚安丸	4	白山市	松北	4	〃	小松大
			5	〃	安犬	5	〃	鶴星	5	能美市	寺井
			6	〃	荒屋	6	〃	兼六	6	白山市	任星
			7	〃	苗代	7	金沢市	城南	7	白山市	翠任
			8	〃	蓮今	8	〃	兼六	8	〃	津
			9	〃	代江	9	〃	鳴長	9	金沢市	沢泉
			10	〃	串	10	〃	浅野	10	〃	金沢二
			11	〃	日符	11	〃	芝野	11	〃	金沢伏
			12	〃	栗木	12	〃	西原	12	〃	金沢辰
			13	〃	津場	13	〃	尾生	13	〃	金沢辰
			14	〃	野田	14	〃	森本	14	〃	金沢北
			15	〃	津	15	〃	高台	15	〃	金沢向
			16	〃	月津	16	〃	尾緑	16	〃	金沢学
			17	〃	那中	17	〃	北尾	17	〃	金沢学
			18	〃	海谷	18	〃	鳴徳	18	〃	いしかわ特別支援
			19	〃	松東みどり学園(小学部)	19	〃	清泉	19	〃	医王特別支援
			20	〃	陵美	20	〃	気台	20	〃	明和特別支援
			21	〃	任丘南	21	かほく市	宇ノ	21	津幡町	津幡
			22	〃	湊	22	〃	河北	22	内灘町	内灘
			23	白山市	朝日	23	津幡町	津幡	23	羽咋市	羽咋
			24	〃	日光	24	羽咋市	羽咋	24	七尾市	七尾
			25	〃	陽越	25	〃	知	25	〃	七尾東
			26	〃	蘭陽	26	宝達志水町	達	26	〃	田鶴
			27	〃	陽	27	志賀町	来	27	〃	田鶴
			28	〃	陽	28	七尾市	尾	28	〃	七尾特別支援学校
			29	〃	陽	29	〃	尾東	29	輪島市	輪島
			30	〃	陽	30	〃	部	30	能登町	能登
			31	野々市市	御富	31	〃	中登	31	珠洲市	飯田
			32	〃	陽	32	中能登町	中能登	32	穴水町	穴水
			33	金沢市	一屋	33	中能登町	能登			
			34	〃	立野						
			35	〃	中央						
			36	〃	長明						
			37	〃	小千						
			38	〃	野川						
			39	〃	野野						
			40	〃	野野						
			41	〃	野野						
			42	〃	野野						
			43	〃	野野						
			44	〃	野野						
			45	〃	野野						
			46	〃	野野						
			47	〃	野野						
			48	〃	野野						
			49	〃	野野						
			50	〃	野野						

51	金 沢 市	不 動 寺					
52	〃	三 小 立					
53	〃	南 木 曳					
54	〃	西 南					
55	〃	米 南					
56	〃	四 西					
57	〃	十 米					
58	〃	四 泉					
59	〃	西 万					
60	津 幡 町	英 鶴					
61	内 灘 町	押 水 第					
62	宝 達 志 水 町	〃					
63	〃	〃					
64	〃	〃					
65	〃	〃					
66	〃	〃					
67	羽 咋 市	羽 粟 ノ					
68	〃	〃					
69	〃	〃					
70	〃	〃					
71	〃	〃					
72	〃	〃					
73	中 能 登 町	鹿 丸 山					
74	七 尾 市	〃					
75	〃	〃					
76	〃	〃					
77	〃	〃					
78	〃	〃					
79	〃	〃					
80	〃	〃					
81	〃	〃					
82	〃	〃					
83	〃	〃					
84	輪 島 市	門 前 西					
計	2 園	計	84 校	計	33 校	計	32 校

(2) 指導体制の充実・強化

ア 会議等

(ア) 青少年赤十字指導者協議会総会・研修会

令和元年5月27日(月) 日赤石川県支部 29人参加

(イ) 青少年赤十字指導者協議会役員研修会

令和元年12月18日(水) 日赤石川県支部 8人参加

(ウ) 青少年赤十字指導者・赤十字ボランティア研修会

加賀地区 令和2年1月24日(金) 日赤石川県支部 15人参加

能登地区 令和2年1月31日(金) フォーラム七尾 18人参加

(エ) 第3ブロック青少年赤十字指導者協議会会長及び支部担当者研究会

令和元年6月14日(金) 日赤石川県支部 5人参加

(オ) 全国青少年赤十字指導者協議会総会

令和元年6月24日(月)～25日(火) 日赤本社 1人参加

(3) メンバーの活動状況

ア 会議等

(ア) 県高校JRC協議会

第1回 平成31年4月20日(土) 津幡高校 12校、50人参加

第2回 令和元年9月14日(土) 金沢辰巳丘高校 7校、64人参加

(イ) 第40回石川県高等学校JRC大会

令和元年5月31日(金) いしかわ子ども交流センター 12校、182人参加

(ウ) 第18回石川県高文連JRC部赤十字救急法大会

令和元年9月21日(土) 金沢錦丘高校 9校、生徒85人参加

- (4) 国際理解・親善活動
海外たすけあいプロジェクト
令和元年12月15日(日) 金沢市内 小学校・高等学校3校、26人参加
- (5) ボランティア活動
1円玉募金
児童館や福祉施設の訪問
清掃活動 等
- (6) 普及活動
ア 高文連JRC部への活動助成
イ 活動紹介機関紙「石川青少年赤十字ニュース」の配布(県内全学校〈小・中・高・特別支援学校〉)
- (7) 指導用教材資料の貸し出し
紙芝居、ネパールの水がめ、地雷模型、地雷関係パネル、松葉杖、盲人用杖、アイマスク、義足など
- (8) 講師派遣
ア 防災教育
(ア) 文科省「つながる食育推進事業」講演
広島県健康・栄養奉仕団の中下委員長にご講演いただいたほか、七尾市赤十字奉仕団員とともに炊き出しも実施した。
令和元年11月9日(土) 七尾市立七尾東部中学校 全校生徒426人参加
(イ) 炊き出し訓練(災害時シミュレーション)
小松市・能美市・JRC賛助赤十字奉仕団員とともに、炊き出し訓練と、避難時の持ち出し品を考える「災害時シミュレーション」を実施した。
令和元年11月22日(金) 小松市立国府中学校 1年生徒80人参加
イ その他
(ア) 人権教育講話
令和元年10月16日(水) 中能登町立中能登中学校 2-3年生徒・指導者349人参加



海外たすけあいプロジェクト



リーダーシップ・トレーニング・センター

12 国 際 活 動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と緊密な連携のもとに、現在も世界の各地で起きている武力紛争や地震等の自然災害による犠牲者等の救援のため、物資や資金の援助及び開発協力要員の派遣を行っている。

石川県支部では、日本赤十字社の活動を支援するとともに、第3ブロック支部共同事業として、「アジア・大洋州給水・衛生キット支援（H22年～）」、「シリア難民支援事業（H28年～）」及び「東アフリカ地域2カ国保健強化事業（H30年～）」に対して援助を行った。

また、被災者等に対する義援金の受付を行うほか、赤十字奉仕団員による「NHK海外たすけあい」街頭募金活動を実施し、本社へ送金した。

日赤第3ブロック支部 共同事業内容

1. シリア難民支援事業

長引く内戦の影響による難民が増加の一途を辿る同国において、現在行っている医療要員や調整要員の派遣による支援をより一層強化する。

2. 東アフリカ地域2カ国（ブルンジ・他1カ国）保健強化事業

自然災害や紛争、テロが頻発する上、保健指標の低さや貧困率の高さ等、さまざまな課題を抱えた同地域において、住民主体で地域保健を強化する活動を支援する。

3. アジア・大洋州給水・衛生キット支援

洪水やサイクロンなどの災害が増加している同国において、迅速に給水・衛生活動が展開できるよう、国際赤十字・赤新月社連盟が開発した「給水・衛生キット」を配備し、スタッフの研修を実施する。

日赤第3ブロック支部 共同事業実績額

年度	支援内容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)	年度	支援内容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)
H26	ベトナム災害対策支援	11,000,000	770,000	H29	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000
	モンゴル青少年教育支援	6,000,000	420,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000
	アジア・大洋州衛生キット支援	3,000,000	210,000		アジア・大洋州衛生キット支援	6,000,000	300,000
	計	20,000,000	1,400,000		計	20,000,000	1,000,000
H27	ベトナム災害対策支援	5,000,000	350,000	H30	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000
	モンゴル青少年教育支援	6,000,000	420,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000
	アジア・大洋州衛生キット支援	3,000,000	210,000		アジア・大洋州衛生キット支援	6,000,000	300,000
	計	14,000,000	980,000		計	20,000,000	1,000,000
H28	シリア難民支援事業	6,000,000	300,000	R 1	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000
	ケニア地域保健強化事業	4,000,000	200,000		東アフリカ地域2カ国保健強化事業	6,000,000	300,000
	アジア・大洋州衛生キット支援	4,000,000	200,000		アジア・大洋州衛生キット支援	6,000,000	300,000
	計	14,000,000	700,000		計	20,000,000	1,000,000

13 医 療 事 業

近年の厚生労働省の医療に関するテーマは地域医療構想、医師の偏在、医師の働き方改革である。特に地域医療構想に関しては様々な試みがなされているが困難な問題も多い。当院は急性期病床を減らして現在120床とし、回復期リハビリ病床と地域包括ケア病床については、合わせて123床としており、入退院支援課による病床管理のもと各患者さんに合わせた入院医療を行っている。地域医療連携課や医師などスタッフの努力で紹介患者数や救急患者取扱数は増加しているが、新入院患者数全体の増加には結び付いていない。このことから、地域密着多機能病院としてより一層地域住民に信頼される医療を展開し、住民の方に当院の取り組みを浸透させる必要がある。

また、当院では平成30年度から基幹型臨床研修病院として研修医の受入れを開始し、令和元年度には1名が研修を修了、現在は4名の研修医の指導を行っており、医師の育成にも尽力している。

一方、当院の医師はまだ不足状態が続いており、内科、外科、整形外科などの人員増を大学医局に依頼するとともに、看護師をはじめとする若手医療スタッフの育成にも病院挙げて取り組み、質の高い医療を提供していきたい。

令和元年度の主な事業

1. 4つのセンター機能強化

病床機能をしっかりと活用し、地域の医療・介護機関、住民等と密着したいわゆる“HUB病院”を目指し、4つのセンター機能（消化器病センター、骨関節・脳血管リハビリテーションセンター、糖尿病・腎センター、患者総合支援センター）の強化に取り組んでいる。

2. 地域医療連携の強化

紹介件数 4,770件（対前年度 4.5%増）

逆紹介件数 5,279件（対前年度 21.1%増）

3. 医療機器等整備

地下水膜ろ過システム、全身麻酔装置など計37点

令和元年度における患者数等は次のとおりである。

(1) 患者数

科別	年度	令和元年度		平成30年度		対前年度増減	
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均
入院		68,963人	188.4人	71,228人	195.1人	△ 2,265人	△ 6.7人
(新入院患者数)		4,112	11.2	4,159	11.4	△ 47	△ 0.2
外来		130,358	543.2	132,824	546.6	△ 2,466	△ 3.4

(2) 診療課別患者数

(入院)

科別	年度	令和元年度		平成30年度		対前年度増減	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科		30,638人	83.7人	33,611人	92.1人	△ 2,973人	△ 8.4人
外科		7,797	21.3	8,425	23.1	△ 628	△ 1.8
整形外科		12,467	34.1	10,478	28.7	1,989	5.4
脳外科		2,258	6.2	2,387	6.5	△ 129	△ 0.3
眼科		860	2.3	785	2.2	75	0.1
産婦人科		247	0.7	198	0.5	49	0.2
小児科		442	1.2	520	1.4	△ 78	△ 0.2
皮膚科		630	1.7	720	2.0	△ 90	△ 0.3
放射線科		—	—	—	—	—	—
麻酔科		—	—	—	—	—	—
リハビリ科		12,648	34.6	13,311	36.5	△ 663	△ 1.9
泌尿器科		976	2.7	793	2.2	183	0.5
計		68,963	188.4	71,228	195.1	△ 2,265	△ 6.7

(外来)

科別	年度	令和元年度		平成30年度		対前年度増減	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科		50,270人	209.5人	52,486人	216.0人	△ 2,216人	△ 6.5人
外科		8,085	33.7	8,311	34.2	△ 226	△ 0.5
整形外科		8,879	46.5	9,083	46.8	△ 204	△ 0.3
脳外科		2,584	10.8	2,689	11.1	△ 105	△ 0.3
眼科		6,430	26.8	6,869	28.3	△ 439	△ 1.5
産婦人科		4,815	20.1	5,384	22.2	△ 569	△ 2.1
小児科		5,091	21.2	5,462	22.5	△ 371	△ 1.3
皮膚科		12,273	51.1	12,359	50.9	△ 86	0.2
放射線科		210	0.9	227	0.9	△ 17	0.0
麻酔科		933	3.9	1,056	4.3	△ 123	△ 0.4
リハビリ科		22,708	94.6	21,410	88.1	1,298	6.5
泌尿器科		8,080	33.7	7,488	30.8	592	2.9
計		130,358	543.2	132,824	546.6	△ 2,466	△ 3.4

(3) 診療単価等

科別	年度	令和元年度	平成30年度	対前年度増減	
				金額	率
患者1人1日 当たりの収入	入院	43,818円	42,259円	1,559円	3.7%
	外来	12,532円	12,258円	274円	2.2%
病床利用率		77.5%	80.3%	—	—
平均在院日数		15.7日	16.1日	—	—
再掲(急性期病床)		10.9日	10.9日	—	—

14 医療・保健等の社会事業

金沢赤十字病院においては、病院経営の重要な部分として、医療・保健衛生等の社会事業を積極的に展開しているが、令和元年度における活動状況は、次表のとおりである。

活動の種別	延対象者数	活動の種別	延対象者数
糖尿病教室	187 人	すこやか検診	2,366 人
栄養指導	1,831	一般健診	2,975
健康講座	187	成人病健診	5,984
訪問看護	3,768	日帰りドック	852
訪問リハビリ	1,473	宿泊ドック	48

15 血液事業

令和元年度の血液事業の運営にあたっては、血液法及び医薬品医療機器等法など関連法令を遵守し、国、県、市町、医療関係者及び献血推進団体等との協力の下、東海北陸ブロック血液センター（以下「ブロックセンター」という。）や管内の地域センターと連携し、安全な血液製剤の安定供給と献血者の確保を着実に推進するとともに、効率的な事業運営に努めることとし、次の事項を重点として取り組んだ。

(1) 安全な血液製剤の安定供給

① 需給管理の充実

医療機関との連携や情報共有の充実に努め、血液製剤の需給予測の精度向上を図るとともに、需要に応じた適切な採血を推進した。

また、医療現場のニーズに対応できる質の高い需給管理を行うため、職員の情報・意識共有の仕組みづくりや教育を推進した。

② 安全性の確保

血液製剤を保管する冷凍・冷蔵設備や運搬車両等設備機器の適切かつ確実な管理運用に努め、故障・緊急時の対応や安全運行等に関する教育訓練を徹底し、常に安全で高品質な血液製剤を供給した。

③ 血液製剤の適正使用の推進

石川県合同輸血療法委員会の活動や石川センターでの研修を通じて、医療機関への情報提供や技術指導の充実に努め、適正使用の一層の推進を図った。

④ 災害時における体制の充実

東海北陸ブロックにおいて高い確率で発生が危惧されている東海トラフ巨大地震等の大震災に対し、危機管理ガイドライン等に基づき、ブロックセンター及び管内地域センターと連携し、合同で災害対応訓練を実施した。また、石川県防災総合訓練に日本赤十字社石川県支部、金沢赤十字病院等と連携のうえ参加し緊急時の対応に備えた。

(2) 献血者の安定的確保

① 普及啓発活動

- ア 石川県立音楽堂において、日本赤十字社副総裁秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席のもと第55回献血運動推進全国大会を開催し、石川センターにおける血液事業の周知、啓発を一層推進した。
- イ 新規キャンペーンの創設や既存キャンペーンの内容見直し等に積極的に取り組み、効果的かつ効率的な普及啓発活動を展開した。
- ウ 若年層にアピールし、血液事業に共感と興味を持ってもらえる情報誌等印刷物の発行に努めた。
- エ ホームページの一層の活用を図り、求められる情報がリアルタイムで簡便かつ正確に閲覧できるよう、管理の徹底や内容の充実に努めた。
- オ 献血推進・予約システム（CMS）による情報提供の充実及び効率化のため、Web会員（複数回献血クラブ会員）の勧誘に努め、年度末会員数が10,000人を超えた。

② 若年層献血者確保対策

- ア 小学生を対象とした献血ふれあい事業や中学生の職場体験事業を積極的に実施した。
- イ 高校生や大学生を対象とした献血セミナーの内容充実に努めるとともに、県や各市町の教育委員会に積極的に働きかけ、年間49回の献血セミナーを開催した。
- ウ 医療や福祉を目指す高校、看護学校、専門学校を対象に、授業の中で血液事業の見学及び研修の参加を呼び掛けるよう努めた。
- エ 移動採血の渉外活動において、事業主や献血担当者に対し若年層献血者確保の重要性を丁寧に説明し、協力を求め、若年層従業員への呼びかけ拡大、強化に努めた。
- オ 若年層のニーズにあった献血処遇品の選定や若年層をターゲットとしたキャンペーンの充実強化など、若年層の献血への積極的な参加を促す広報活動の実施に積極的に取り組んだ。
- カ 石川県学生献血推進委員会への適切な支援を通じて、同委員会が取り組む若年層献血推進活動の一層の活性化を促した。
- キ 大学・短大の教職員と学生による石川県学生献血推進連絡会と連携し、学生献血推進ボランティアの活動支援を強化した。
- ク ブロックセンターや管内地域センターとの情報・意見交換を行い、有効な若年層対策の実現に努めた。
- ケ 将来の献血を担う若年層献血者の確保目標値を設定し、10代、20代、30代の献血者について、前年度を上回る献血者数確保に努めた。

③ 成分献血登録者の拡充

- 血小板製剤の県内自給を目指し、医療機関の要望に確実に応えられるよう、血小板成分献血登録者の拡充に努めた。また、HLA型の登録を推進し、高品質な血小板製剤の供給に努めた。

④ 献血者の安全確保

ア 献血時におけるインフォームドコンセントを徹底し、献血者の健康状態に十分配慮した採血に努めた。

イ VVR等採血副作用の予防に細心の注意を払うとともに、副作用が発生した場合の措置について教育訓練を徹底した。

ウ 採血課職員の日本輸血・細胞治療学会が認定する「アフエレーシスナース（成分採血認定看護師）」の認定取得に積極的に取り組んだ。

⑤ 献血者への健康管理サービス

低ヘモグロビン等により献血できなかった献血申込者への栄養士による健康相談やB型肝炎及びC型肝炎ウイルス検査陽性献血者への健康相談を実施し、献血不適格者への健康指導に努めた。

(3) 効率的な事業運営

① 400mL献血の推進

医療機関の需要に応えるとともに、効率的な血液事業を推進するため、全血献血は400mLを基本とし、200mL献血をできる限り抑制することにより、全血献血に占める比率が94.0%以上であった。

② 移動採血1稼働あたりの採血効率の向上

移動採血の計画、実施にあたっては、配車先事業所への渉外活動やライオンズクラブ等献血協力団体との協力体制の強化等により、1稼働あたりの採血数を増やし、必要な血液量を確保するとともに稼働数の削減を図った。

③ 献血ルームの事業改善

ア 献血ルームの全血献血の向上に取り組むとともに、血液製剤の需給状況を踏まえた適切な成分献血者確保に努めた。

イ 献血推進・予約システムを活用した予約献血を推進し、献血者の利便性向上に努めた。

ウ 血小板製剤の献血後3日運用を促進するため、曜日別の適切な採血数を設定し、計画に沿った採血数の確保に努めた。

④ 成分献血の効率化

ア 血小板成分採血にあたっては、分割血小板採取の比率向上を図り、採取率36%を確保した。

イ 循環血液量に応じた最大限の血漿確保を推進し、血漿成分献血における1本あたりの平均採取血漿量は544.3mL、血小板（血小板+血漿）採血における1本あたりの原料血漿採取量は、分割製造用169.5mL、非分割製造用273.2mLを確保した。

⑤ 供給体制の効率化

臨時配送便を削減するための医療機関との協議を進め、定期便率の向上を図った。また、備蓄医療機関制度を廃止した能登地域の医療機関への供給については、影響が最小限となるよう供給体制の強化に努めた。

(4) 持続可能な血液事業（事業の活性化）の推進

① 人材育成・人事交流

職員の日本赤十字社石川県支部及びブロックセンターとの職員交流及び統一的な研修体制の整備に努め、職員の能力向上を促進した。

② 研修教育機能の充実

ブロックセンター石川製造所と連携し、血液事業全体を研修できる血液センターとして、研修医や保健学科学生、看護学生、高校生を積極的に受け入れ、血液事業の新しい担い手や安全な輸血医療の担い手を引き続き確保・拡充した。

③ 経営改善の取組と事業運営の活性化

近年の血液事業特別会計の厳しい財政状況を踏まえ、職員一丸となって「カイゼン」活動に積極的に取り組むとともに、事業評価結果に基づき事業の質的向上及び事業の効率化を推進し、事業運営の活性化を図った。

(5) 造血幹細胞事業の推進

石川県及び県内ボランティア組織（はとの会）と連携して、骨髄バンク登録の支援に努め、登録者の増加を図った。

(6) 献血・血液製剤供給状況等（令和元年度）

① 市町別献血状況（令和元年度）

市町別	献血目標				献血者数実績				達成率
	200mL	400mL	成分	合計	200mL	400mL	成分	合計	
金 沢 市	188人	6,440人		6,628人	289人	6,362人		6,651人	100.3%
七 尾 市	23	730		753	27	745		772	102.5
小 松 市	61	2,320		2,381	108	2,507		2,615	109.8
輪 島 市	20	600		620	47	630		677	109.2
珠 洲 市	6	200		206	12	312		324	157.3
加 賀 市	35	1,000		1,035	29	1,010		1,039	100.4
羽 咋 市	8	260		268	6	304		310	115.7
か ほ く 市	23	762		785	22	876		898	114.4
白 山 市	65	2,200		2,265	82	2,281		2,363	104.3
能 美 市	22	780		802	27	707		734	91.5
野々市市	36	1,300		1,336	89	1,488		1,577	118.0
川 北 町	6	145		151	6	138		144	95.4
津 幡 町	12	350		362	26	341		367	101.4
内 灘 町	3	140		143	6	169		175	122.4
志 賀 町	28	723		751	25	753		778	103.6
宝達志水町	3	110		113	3	80		83	73.5
中能登町	4	130		134	5	242		247	184.3
穴水町	3	110		113	6	98		104	92.0
能登町	4	130		134	8	138		146	109.0
小 計	550	18,430		18,980	823	19,181		20,004	105.4
く ら つ き	60	3,670	6,750	10,480	175	4,053	7,761	11,989	114.4
ル・キューブ	360	3,530	7,650	11,540	753	4,174	8,232	13,159	114.0
合 計	970	25,630	14,400	41,000	1,751	27,408	15,993	45,152	110.1
平成30年度合計	1,210	25,990	13,830	41,030	1,784	25,610	15,148	42,542	103.7

② 献血者の内訳（令和元年度）

【種類別・男女別】

種類区分	性別	献血者数
200mL	男	257人
	女	1,494
	計	1,751
400mL	男	21,322
	女	6,086
	計	27,408
成分	男	11,372
	女	4,621
	計	15,993
合計		45,152

【年齢別】

年齢区分	献血者数
16～19歳	2,760人
20～29歳	6,355
30～39歳	7,265
40～49歳	13,172
50～59歳	11,238
60～69歳	4,362
合計	45,152

【職業別】

職業区分	献血者数
公務員	6,278人
会社員	26,545
学生	4,671
その他	7,658
合計	45,152

【男女別】

区分	男性	女性	合計
献血者数	32,951人	12,201人	45,152人

③ 血液製剤供給状況（令和元年度）

令和元年度中の血液製剤供給本数は、200mL献血換算数で132,924本、その内訳は次のとおりである。

製剤名	供給数	供給数						計	構成比		
		1単位	2単位	4単位	5単位	10単位	15単位			20単位	
全血製剤	照射人全血液-LR	本 0	本 0	本 —	本 —	本 —	本 —	本 —	単位 0	% 0.0	
	全血製剤計	0	0	—	—	—	—	—	0	0.0	
成分	赤血球液	照射赤血球液-LR	1,667	20,542	—	—	—	—	—	42,751	32.2
		照射洗浄赤血球-LR	0	42	—	—	—	—	—	84	0.1
		照射解凍赤血球-LR	0	17	—	—	—	—	—	34	0.0
		照射合成血-LR	0	2	—	—	—	—	—	4	0.0
		計	1,667	20,603	—	—	—	—	—	42,873	32.3
製剤	血漿製剤	新鮮凍結血漿-LR	273	6,200	443	—	—	—	—	14,445	10.9
		計	273	6,200	443	—	—	—	—	14,445	10.9
剤	血小板製剤	照射濃厚血小板-LR	1	0	—	51	7,379	30	0	74,496	56.0
		照射濃厚血小板HLA-LR	0	0	—	—	110	0	0	1,100	0.8
		照射洗浄血小板-LR	0	0	—	—	1	0	0	10	0.0
		計	1	0	—	51	7,490	30	0	75,606	56.8
血液成分製剤計		1,941	26,803	443	51	7,490	30	0	132,924	100.0	
合計（単位）		1,941	53,606	1,772	255	74,900	450	0	132,924	100.0	
平成30年度（単位）		1,460	54,704	3,712	380	72,270	285	0	132,811		

④ 原料血漿確保量（令和元年度）

原料血漿確保目標量 9,904L 確保量 11,126L
 （平成30年度目標量 8,930L）

16 決 算 状 況

(1) 令和元年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書

歳 入

科 目		予 算 現 額			決 算 額	収入未済額	予算現額に 比し増減
		当初予算額	補正予算額	計			
社資 収入	一般社資収入	円 146,000,000	円 0	円 146,000,000	円 146,615,295	円 0	円 615,295
	法人社資収入	12,000,000	0	12,000,000	12,798,021	0	798,021
	計	158,000,000	0	158,000,000	159,413,316	0	1,413,316
委 託 金 収 入		0	0	0	904,893	0	904,893
補助金及び交付金収入		6,959,000	8,360,000	15,319,000	15,136,500	0	△ 182,500
繰 入 金 収 入		10,740,000	0	10,740,000	5,780,000	0	△ 4,960,000
雑 収 入		4,095,000	6,480,000	10,575,000	15,133,037	0	4,558,037
前年度繰越金		6,043,000	0	6,043,000	18,382,897	0	12,339,897
合 計		185,837,000	14,840,000	200,677,000	214,750,643	0	14,073,643

歳 出

科 目	予 算 現 額				決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額
	当初予算額	補正予算額	流用増減額	計			
災害救護事業費	円 25,226,000	円 8,360,000	円 0	円 33,586,000	円 28,737,542	円 0	円 4,848,458
社会活動費	50,370,000	0	0	50,370,000	46,272,389	0	4,097,611
国際活動費	1,047,000	0	0	1,047,000	1,020,000	0	27,000
指定事業地方振興費	500,000	0	20,000	520,000	520,000	0	0
地区分区交付金	19,968,000	0	0	19,968,000	16,241,000	0	3,727,000
社業振興費	22,496,000	0	0	22,496,000	19,004,383	0	3,491,617
基盤整備交付金・補助金支出	0	6,480,000	50,000	6,530,000	6,530,000	0	0
積立金支出	4,496,000	0	0	4,496,000	4,450,824	0	45,176
総務管理費	32,767,000	0	0	32,767,000	29,635,017	0	3,131,983
資産取得及び資産管理費	4,841,000	0	0	4,841,000	4,695,779	0	145,221
本社送納金	23,325,000	0	210,000	23,535,000	23,533,997	0	1,003
予 備 費	801,000	0	△ 280,000	521,000	0	0	521,000
合 計	185,837,000	14,840,000	0	200,677,000	180,640,931	0	20,036,069

歳入歳出差引額 34,109,712円 翌年度繰越金

(2) 令和元年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

金沢赤十字病院

科 目		決 算 額
医 業 収 益	入 院 診 療 収 益	3,021,848,995 円
	室 料 差 額 収 益	98,240,770
	外 来 診 療 収 益	1,633,696,433
	保 健 予 防 活 動 収 益	201,786,409
	受 託 検 査 ・ 施 設 利 用 収 益	0
	そ の 他 の 医 業 収 益	61,276,107
	保 険 等 査 定 減	△ 8,904,487
	小 計	5,007,944,227
医 業 費 用	材 料 費	1,148,541,992
	給 与 費	2,912,056,361
	委 託 費	309,218,558
	設 備 関 係 費	488,029,538
	研 究 研 修 費	12,401,373
	経 費	241,384,965
	小 計	5,111,632,787
医 療 事 業 損 失	△ 103,688,560	
医 業 外 収 益	89,944,040	
医 業 外 費 用	13,552,304	
医 業 外 利 益	76,391,736	
医 療 社 会 事 業 収 益	38,532	
医 療 奉 仕 費 用	94,937,464	
医 療 社 会 事 業 損 失	△ 94,898,932	
付 帯 事 業 収 益	34,670,759	
付 帯 事 業 費 用	39,322,129	
付 帯 事 業 損 失	△ 4,651,370	
特 別 利 益	172,697	
特 別 損 失	611,640	
特 別 損 失	△ 438,943	
法 人 税 等	245,885	
収 益 的 収 入 合 計	5,132,770,255	
収 益 的 支 出 合 計	5,260,302,209	
当 期 純 損 失	△ 127,531,954	

17 日本赤十字社石川県支部役員名簿

(令和2年4月28日現在)

役職名	氏名	当初就任年月日	選任回数	至任期	備考
支部長	谷本正憲	平成6.4.12	9	令和3.4.11	石川県知事
副支部長	山野之義	平成26.10.7	2	令和2.10.6	石川県市長会長
副支部長	矢田富郎	令和元.6.18	1	令和4.6.17	石川県町長会長
副支部長	北野喜樹	平成31.4.1	1	令和4.3.31	石川県健康福祉部長
評議員	※荒木龍平	平成19.2.14	5	令和4.2.13	石川県日赤紺綬有功会会長
評議員	※吉田國男	平成22.2.14	4	同上	財団法人石川県社会保険協会会長
評議員	※明石巖	平成23.2.17	4	同上	株式会社明石合鋼代表取締役会長
評議員	※田上好道	平成26.2.14	3	同上	石川県商工会連合会会長
評議員	※能木場由紀子	平成20.4.23	5	同上	石川県婦人団体協議会会長
評議員	※松本明	平成27.4.18	3	同上	赤十字奉仕団石川県支部委員会委員長
評議員	本谷悦子	平成28.4.22	2	同上	金沢市校下婦人会連絡協議会副会長
評議員	土谷守	平成30.4.23	2	同上	金沢市消防団連合会会長
評議員	高野善一	令和元.12.3	1	同上	金沢市民生委員児童委員協議会会長
評議員	丸口邦雄	平成31.4.1	1	同上	金沢市社会福祉協議会会長
評議員	桶川秀志	令和元.5.30	1	同上	金沢市シルバー人材センター理事長
評議員	村山卓	平成31.4.1	1	同上	金沢市副市長
評議員	宮坂清	令和2.4.10	1	同上	金沢市公民館連合会副会長
評議員	中川一成	令和2.4.1	1	同上	金沢市町会連合会会長
評議員	古田秀一	平成31.2.14	1	同上	元金沢市公営企業管理者
評議員	不嶋豊和	平成24.11.7	4	同上	七尾市長
評議員	和田慎司	平成21.4.13	5	同上	小松市長
評議員	村西卓	令和2.4.28	1	同上	小松市町内会連合会会長
評議員	梶文秋	平成18.3.20	6	同上	輪島市長
評議員	泉谷満寿裕	平成18.6.12	6	同上	珠洲市長
評議員	宮元陸	平成25.10.30	3	同上	加賀市長
評議員	山辺芳宣	平成20.11.1	5	同上	羽咋市長
評議員	油野和一郎	平成16.4.12	6	同上	かほく市長
評議員	山田憲昭	平成26.12.5	3	同上	白山市長
評議員	北出達也	平成31.4.14	1	同上	白山市町会連合会会長
評議員	井出敏朗	平成29.2.27	2	同上	能美市長
評議員	栗貴章	平成19.6.10	5	同上	野々市市長
評議員	前哲雄	平成23.4.27	4	同上	川北町長
評議員	川口克則	平成31.2.14	1	同上	内灘町長
評議員	寶達典久	平成31.2.14	1	同上	宝達志水町長
評議員	杉本栄蔵	令和元.6.18	1	同上	中能登町長
評議員	持木一茂	平成31.2.14	1	同上	能登町長
監査委員	岸弘市	平成12.2.21	7	令和3.2.20	石川産業保健総合支援センターカウンセリング相談員
監査委員	高澤良英	平成27.2.21	2	同上	七尾商工会議所常任顧問
監査委員	江口介一	令和2.2.14	1	令和5.2.13	石川県建設業協会副会長
本社代議員	中西一順	平成20.2.14	5	令和4.2.13	元押水町長
本社代議員	菱沼捷二	平成22.2.14	4	同上	石川県鉄工機電協会会長
本社代議員	西村徹	平成28.2.14	2	同上	石川県土地改良事業団体連合会会長
本社理事	中西一順	平成20.4.1	5	令和5.3.31	

※印は支部長選出評議員

(順不同、敬称略)

役職名	氏名	当初就任年月日	備考
支部参与	中西吉明	平成 22. 7. 1	石川県副知事
支部参与	田中新太郎	令和 2. 4. 1	石川県副知事
支部参与	藤村一志	平成 31. 4. 1	石川県健康福祉部次長
支部参与	笹川裕樹	令和 2. 4. 1	石川県健康福祉部厚生政策課長
支部参与	高橋健司	令和 2. 4. 1	石川県健康福祉部医療対策課長
支部参与	中村博之	令和 2. 4. 1	石川県健康福祉部薬事衛生課長
支部参与	小泉勝	平成 31. 2. 14	志賀町長
支部参与	石川宣雄	平成 31. 2. 14	穴水町長
支部参与	小寺洋右	令和 2. 4. 1	金沢市町会連合会事務局長
支部参与	普赤清幸	令和 元. 7. 2	金沢商工会議所専務理事

(順不同・敬称略)

支部長	1名	本社代議員	3名
副支部長	3名	本社理事	1名(代議員兼任)
評議員	32名	支部参与	10名
監査委員	3名	計	52名(兼任を除く)